

“せんだい都心再構築プロジェクトなどテーマ”

『不動産ファンドフォーラムを開催』

アセット・ブレイクス・仙台ネットワーケ

仙台圏の事業用不動産取引市場は今年に入りJリートによる大型取引も複数行われ、コロナ禍前の水準に戻りつつある。仙台市は2019年7月に「せんだい都心再構築プロジェクト」を発表し、20年4月にNTT都市開発の「アーバンネット仙台中央ビル」新築計画を施策活用第1号物件として発表した。その後同年10月に第2弾施策、22年6月に新たに3棟の新築ビル計画の発表を行い、都心部の持続的な経済成長につながる環境整備が進むことが期待されている。

このような状況の中、

資産活用をサポートするコンサルティング活動を行っているアセットブレイクス仙台ネットワーケ(事務局・仙台市泉区

地方創生セミナーを開催(参加費無料)し、地方都市での不動産証券化ビジネスの可能性などについて専門家が講演を行

抽選)とし、動画視聴希望者には後日、パスワードを発行し動画配信する予定。セミナーは3部構成で、冒頭、アセットブレイクスの佐々木事務局長が、「仙台・東北圏の最

せんだい都心再構築プロジェクトなどテーマ

11月9日(水) 仙台商工会議所

本紙など後援 不動産ファンドフォーラムを開催

上谷刈1の7の35 佐々木正之事務局長は、11月9日(水)の13時30分から17時まで、仙台市青葉区本町の仙台商工会議所で「不動産ファンドフォーラム2022イン

う。建設新聞社や一般社団法人・不動産証券化協会、一般財団法人・日本不動産研究所などが後援する。新型コロナウイルス対策のため、会場参加の定員は70人(応募者多数の場合は

新事業用・投資用不動産事情2022・秋」として不動産市場の現状を総括する。第1部は「せんだい都心再構築プロジェクトの進捗状況」について、仙台市まちづくり政策局政

策企画部政策企画課政策企画係長の鹿中律良氏と同市都市整備局市街地整備部都心まちづくり課都心整備係長の安達慶洋氏が、再構築プロジェクトの様々な施策概要と事業化対象とされた3棟の高機能オフィスビルの計画

信之氏が日本の不動産投資市場の現状と今後の動向および地方都市での不動産証券化の可能性をテーマに解説する。セミナーへの参加希望者は、会場参加か動画視聴を選択した上、申込書に必要事項を記入し、FAXかメールにて申し込む。申込書は同ネットワーケのHP (http://www.asset-b.net/) からダウンロードできる。①FAX 022-374-4569 ②Eメール asset-b@acanone.net ③問い合わせは、アセットブレイクス仙台ネットワーケ事務局 ☎022-773-6685。

“最新の建設・取引動向を解説”

『不動産ファンドフォーラムを開催』

最新の建設・取引動向を解説

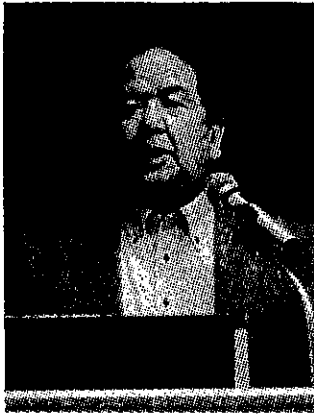
不動産ファンドフォーラム開催

アセットブレインズ
仙台 N T

資産活用コンサルティング活動を行っているアセットブレインズ仙台

ネットワーク(仙台市泉区) 佐々木正之事務局長

は9日、仙台市の仙台商工会議所で「不動産ファンド



佐々木事務局長

ム2022イン仙台く地方都市における地方創生セミナー」を開催した。

不動産関係者ら約90人が参加する中、佐々木事務局長は分譲マンションや物流施設の建設動向、仙台圏の不動産取引など、最新の不動産事情を解説。分譲マンションについては、数年前に比べ東北6県全体で供給戸数が増えていることなどを説明し、「建築コストの増加に関係なく建設が増え

ている」と分析した。

この後、第1部では「せんだい都心再構築プロジェクトの進捗状況」について仙台市まちづくり政策局の鹿中律良氏と仙台市都市整備局の安達慶洋氏が講演。

第2部では同プロジェクト第1号物件の「アーバンネット仙台中央ビル」の概要をNTT都市開発東北支店の藤澤芽生氏が紹介した。

また、第3部は「ウイズコロナ時代における不動産投資市場の動向」をテーマに不動産証券化協会の田邊信之氏が講演した。

(詳細は1月上旬の新年特集に掲載)